

- ・国際日本学シンポジウム開催報告（7月6日）
- ・サマープログラム実施報告
- ・グローバル女性リーダーシッププロジェクト 公開セミナー開催報告
- ・意見交換会 お茶大リベラルアーツからの視点 「未来の東京」への論点
～今、なすべき未来への投資とは～
- ・女性が輝くTOKYO懇話会「ガラスの天井を打ち破れ！
～女性も男性も輝く未来へ～」開催報告
- ・女性のキャリアと経済（女性リーダーへの道（ロールモデル入門編））
開講の報告とご案内
- ・第一回「未来起点フォーラム」開催のおしらせ

国際日本学シンポジウム開催報告（7月6日）

2019年7月6日（土）に比較日本学教育研究部門主催の第21回国際日本学シンポジウムが開催されました。

今年は「グローバル・ヒストリーと国際日本学」がテーマです。近年、歴史学においては、一国史の枠を超えて地域間のつながりや関係を、ある時は地球規模で、ヒト、モノ、知識などの移動について考察するグローバル・ヒストリーが、新しい歴史研究としてひとつの潮流を形成しています。しかし、日本史はその潮流から除外されているようにも見えます。日本史においても、グローバル・ヒストリーの研究方法は有効なのでしょう。シンポジウムでは、この問いに対し、本学の小玉亮子教授が司会を務め、日本学研究におけるグローバル・ヒストリーの可能性について考察されました。

まず、南カリフォルニア大学のジョーン・ピジョー氏に“What can Japan's history contribute to world history?”（日本史は世界史の中にどう位置づけられるのか？ーグローバルヒストリーの枠組みから見た日本の律令国家ー）」と題したご講演をいただき、続いて、日本におけるグローバル・ヒストリー研究を牽引されている羽田正先生（東京大学）に「グローバルヒストリーと日本史」についての基調講演をいただきました。その後、本学の古瀬奈津子教授から「東アジアにおける王権の古代から中世へ」、芹澤良子研究員から「衛生のグローバル化と日本」、本林響子助教から「日本人の海外移住と日本語教育支援政策」に関するご報告をいただき、総括として、会場からの質問も交えたパネルディスカッションがおこな

われました。注目を集めている分野ゆえ白熱した議論が展開され、充実した一日となりました。

文責：古瀬奈津子（グローバルリーダーシップ研究所 比較日本学教育研究部門長、基幹研究院人文科学系教授）



グローバル・ヒストリーと国際日本学

第21回国際日本学シンポジウム
2019年7月6日(土)
 東京都文京区大塚2丁目1番地1号
 お茶の水女子大学本館3階306室
【使用言語：日本語、資料代：500円、参加申込み不要】
 ＊入構の際には身分証明書等のご提示をお願いします＊

<p>午前の部 11:00～12:15</p> <p>挨拶 佐々木素子(本学理事・副学長)</p> <p>司会 小玉 亮子(本学)</p> <p>講演 ジョーン・ピジョー (南カリフォルニア大学) "What can Japan's history contribute to world history?"</p> <p><small>アクセス：東京が丸の内線「茗荷谷」駅より徒歩7分、東京が丸の内線「湯島」駅より徒歩10分 正門からお入りください。(土曜日につき南門は閉門) 【主催・お問い合わせ先】 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所比較日本学教育研究部門 毎週水曜10～17時、TEL 03-5978-5504 E-mail ccjs@cc.ocha.ac.jp ホームページ http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/</small></p>	<p>午後の部 13:30～17:30</p> <p>基調講演 羽田 正(東京大学) 「グローバルヒストリーと日本史」</p> <p>研究発表 古瀬奈津子(本学) 「東アジアにおける王権の古代から中世へ」 芹澤 良子(本学) 「衛生のグローバル化と日本」 本林 響子(本学) 「日本人の海外移住と日本語教育支援政策」</p> <p>パネルディスカッション 司会 小玉 亮子(本学)</p>
--	--

サマープログラム実施報告

2019年7月27日（土）～8月9日（金）の2週間にサマープログラムが開催されました。開催7年目となる「Course 1: Japanese Language Course」には、海外協定校生32名が参加しました。また、開催9年目となる「Course 2: Culture & Society Course (taught in English)」は、海外協定校生54名、本学からは86名が参加し、計140名の参加数となりました。多国籍の学生がチームを組んでそれぞれの専門分野に関連するトピックについて発表を行った「Project Work」は、海外協定校生60名、本学学生63名、計123名の参加数となりました。2コース合わせて14か国25校から参加者が集まりました。

2コース共通の活動として、授業とは別に3件の特別講演（UNWomen日本事務所長 石川雅恵



氏による「国際社会における女性リーダーの活躍」、元駐米大使 藤崎一郎氏による「グローバルリーダーシップに必要なスキルについて」、ロンドン大学バークベック校日本語講師 センテノ・マルコス氏による「フィルムを通して日本文化を海外に発信」の開催の他、課外活動としての文化イベント（「理科教室」、「日本語入門」「日本のポップカルチャーと和菓子（附属中学校との共同イベント）」「着物」）を開催し、多くの参加者が集まり、日本文化や日本から見る世界情勢について学びました。

また、今年度は、2019年3月に竣工しました国際交流留学生プラザにて、開講式、授業（「ジェンダーとリーダーシップ」と「日本のライフスタイル」）、特別講演、文化イベント、閉講式を実施し、好評のうちに幕を閉じました。



文責：松田 デレク（国際教育センター・グローバルリーダーシップ研究所 講師）、長塚 尚子（グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー）

グローバル女性リーダーシッププロジェクト 公開セミナー開催報告

2019年9月25日（水）14時～16時30分、お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科棟604室にて、グローバルリーダーシップ研究所（IGL）主催のグローバル女性リーダーシッププロジェクトの公開セミナーが行われました。本プロジェクトは、経営学や心理学などを中心として議論されている女性リーダーの育成やグローバルリーダーシップについて、国際・社会組織などを事例に、経済学、経営学、社会学、政治学、ジェンダー研究などの分野から再検討することを目的としたもので、今回のワークショップでは、政治分野（政治参画、政策決定過程など）や経済分野（企業、労働組合など）における女性リーダーの不在や育成に関して、以下の4人が発表し、前IGL特別招聘教授のカレン・シャイア氏がコメンテータを務めました。IGL、ジェンダー研究所のメンバーや大学院生などが出席し、フロアとの質疑応答も含め活発な議論が行われ、盛況のうちに終了しました。

○発表者

大木直子（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師、プロジェクトリーダー）

金井郁（埼玉大学大学院 人文社会科学研究科 准教授）

金美珍（法政大学 社会問題研究所 客員研究員）
浜田江里子（千葉大学 法政経学部 特任研究員）

○コメンテータ

カレン・シャイア（ドイツ デュースブルク・エッセン大学 東アジア研究所 教授、エッセン・カレッジ・オブ・ジェンダー・リサーチ ディレクター、前 グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授）

文責：大木直子（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



意見交換会 お茶大リベラルアーツからの視点 「未来の東京」への論点 ～今、なすべき未来への投資とは～

東京都が2040年代を見据えて今年8月に発表した「『未来の東京』への論点」に関する意見交換会が、10月21日（月）16:40-18:10に、本学国際交流留学生プラザにおいて開催されました。意見交換会に先立ち、10月2日（水）、9日（水）、15日（火）に3回の事前授業を実施し、理系文系の枠を超えて、様々な分野の教員（8名）が登壇しました。学生にとっては、各教員が専門に基づいて「『未来の東京』への論点」をどのように見るのかということに触れる、大変貴重な機会となりました。

学生からは「そもそも施策立案とそれに対するパブリックコメントをするという機会が今までなかったもので、どのようにコメントするべきかわからずいたが、先生方がそれぞれ独自の切り口でお話ししてくださったので、少し自分の意見やコメントを構築するヒントが得られました」等、多数のコメントが寄せられました。

意見交換会当日は、学生21名が集まり、「『未来の東京』への論点」策定に携わられた東京都政策企画局計画部計画課の方々もオブザーバーとして参加頂き、「この提言は誰のためのものなのか?」、「日本にきている外国人は本当に働きやすいだろうか」、「日本がテクノロジー大国と自負するなら社会に還元する形で発信すればいい」等、活発な意見交換が見られました。また、当日は、グラフィックレコーディングの専門家にお越し頂き、学生の議論をリアルタイムで「見える化」したことで、より積極的に意見交換をする学生の様子が見られました。

「『未来の東京』への論点」を通して、多くの学生が自身を振り返るきっかけにもなりました。

文責：岡村 利恵（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）、長塚 尚子（同 特任アソシエイトフェロー）



女性が輝くTOKYO懇話会「ガラスの天井を打ち破れ！ ～女性も男性も輝く未来へ～」開催報告

2019年11月27日（水）、本学徽音堂において、「女性が輝くTOKYO懇話会」 「ガラスの天井を打ち破れ！～女性も男性も輝く未来へ～」が開催され、本学学生・教職員のほか都内在住・在勤の方などを含め約450名が参加しました。“女性が輝くTOKYO懇話会”は、東京都が女性活躍の推進について広く発信と提言を行うことを目的として2017年度から開催しており、2018年度に本学が東京都女性活躍推進大賞を受賞したことから、今年度は女性リーダー育成等に取り組んでいる本学と共同で開催することになったものです。

懇話会では、小池百合子東京都知事、室伏きみ子お茶の水女子大学長の挨拶に続き、青山美奈株式会社ブリヂストン先進材料企画部長、柴田裕子東海旅客鉄道株式会社人事部勤労課担当課長から現在の仕事なども含めて自己紹介をしていただきました。次いで、本学生活科学部卒業生である池田伸子NHKアナウンサーをモデレーターとして、「キャリア形成」「管理職として働くこと」「家庭と仕事の両立」「“ガラスの天井”を踏まえて、これまで働いてきて苦労したこと」等について出演者4名によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションの後、事前に参加者から寄せられた質問をもとに青山氏、柴田氏に「将来女性リーダーとして活躍するために、大学生活で身につけておいた方がよいこと、やっておいた方がよいこと」について、小池都知事に「キャスター、都知事などのキャリアを重ねられた思いなどを踏まえ、キャリア形成の上で軸となるもの」について、ご自身の思いをうかがい、最後に出演者4名から会場の方へメッセージをいただきました。

リーダーとして活躍される女性たちから勇気と自信が湧くメッセージをいただくことができ、たいへん貴重な機会となりました。

文責：本橋 直美（企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）



女性のキャリアと経済（女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）） 開講の報告とご案内

本講座は、行政・公的機関、産業界、金融界、マスコミなど社会の第一線で活躍中の方をゲスト講師としてお招きし、各分野の仕事の内容や社会的な役割等についてお話しいただくことを眼目に運営されています。本年度下期については、10月8日の岡野結城子氏（外務省 大臣官房会計課長）を皮切りに、10月29日に伊能綾子氏（シリコンバレージャパンプラットフォーム 日本事務所長）、11月12日に鹿島みかり氏（日本銀行 広報課長）、11月19日に翁百合氏（日本総研 理事長）、12月3日に井原圭子氏（朝日新聞 女性プロジェクト担当補佐兼教育事業担当補佐、前AERA編集長）、12月10日に三好志保氏（三菱UFJ銀行 ダイバーシティ推進室長）をお招きし、各々の分野の業務内容やその役割、職業や生活に係る経験等についてお話を伺いました。受講者にとっては、講師ご自身の実際の体験やそこで培われた知見、教訓に直接触れるとともに、質疑応答での活発な意見交換を通じて、将来のキャリアに関する考え方、リーダーやロールモデルに期待される役割について、徐々に、しかしながらしっかりとイメージすることができつつあるように思います。



今後のスケジュールについては、12月24日（火）に大和総研理事長（元日本銀行副総裁）・中曽宏氏を、1月7日（火）に内閣府男女共同参画局長・池永肇恵氏をお招きし、公的組織のトップを経験された立場から、お話を伺う予定です。いずれも16:40～18:10、共通講義棟2号館101室で開催します。お茶大関係者（学生、教職員、小中高生徒と保護者）であれば、各回限りの参加でもかまいません。事前登録等も不要ですので、ご関心のある方のご参加をお待ちしています。

文責：小高 新吾（グローバルリーダーシップ研究所 客員教授）

第一回「未来起点フォーラム」開催のお知らせ

株式会社ブリヂストンと本学は未来の女性リーダーの創出を狙い、社会連携講座「未来起点ゼミ（大学院では未来起点研究）」を2019年度より開講しました。この1年間の学びの集大成として、「未来起点フォーラム」を開催します。

【第一回「未来起点フォーラム」】

日時：2020年1月23日(木)

17:00～18:30（受付開始16:40）

場所：お茶の水女子大学

人間文化創成科学研究科棟604室

内容：個人の願望をベースとした2030年までに実現したいこととその道筋についてブース発表形式（予定）

参加申込方法：決定次第IGLのHPに掲載予定

このゼミは附属高校生から大学院生まで、様々な専門分野の学生が参加することで、学際的な対話の場となっています。前期では自分の願望に向き合い、2030年になりたい自分と社会を考えました。授業ではSDGsカードゲームや官公庁、企業、NPO法人の若手リーダーの方々を招き、対話を通して実現したい未来を具体的に描くことを目標にしました。後期は2030年の願望の実現の障壁は何かを調査し、その解決のためのエコシステムを考え、未来を起点にバックキャスト思考をもとに2030年の願望の実現のために今から何をすべきか、各々未来起点フォーラムで提言します。

現在、班ごとにエコシステムを検討し、授業内で発表し、議論しています。またフォーラムの運営も学生主体で進んでおります。ご参加方法、詳しい各個人のテーマなどは決定次第、IGLのホームページに掲載する予定です。ご不明の点などございましたら担当教員佐野（sano.junko@ocha.ac.jp）、増谷（masutani.maki@ocha.ac.jp）、角田（tsunoda.ayano@ocha.ac.jp）までご連絡下さい。

文責：佐野 潤子（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



【発行元】 国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 人間文化創成科学研究科棟506室
Tel/Fax: 03(5978)5520 E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>